



令和2年度の再スタート

はじめが肝心です続編



昨年度末のテロワールNo.15で「新年度のスタートでの学級づくりのポイント」をお伝えしましたが、学校の臨時休業、再開、再休業など、想定外の事態が次々と起こり、予定していた学級開き、その後の学級づくりが思い通りに進まなかったと思います。

そこで、6月の学校の再開に合わせ、もう一度「学級の再スタート」を考えましょう。本号では、これから取り組める実践を紹介し、実態に合わせてご活用ください

その1 子どもに集団づくりのステップを意識させる

これからの10か月間を4期に分けて集団づくりの見通しをもちます。学級や学年でその期間の特徴を捉え、学級活動、児童会や生徒会での計画を基に、そこで目指す姿を子どもにも分かるように示して、めあてや目標をもたせます。

今年度は、3密を避けるなどの新しい生活様式を意識しなければなりません。まずは子どもと一緒に各期でどんなことができるのかを考えることが大切です。

ふれあい期 6～8月	仲間と出会い、みんなで取り組む楽しさを感じる活動
ささえあい期 9～10月	仲間と話し合い、みんなで力を合わせる大切さを知る活動
たかめあい期 11～12月	仲間と励まし合いながら、やりとげる充実感を味わう活動
みとめあい期 1～3月	自分と仲間のよさを確かめ合い、変容や成長を自覚する活動

その2 みんなで一緒に取り組む楽しさを味わわせる

久しぶりの仲間との再会です。この時期には、特に「学級が楽しい」と感じさせたいものです。そこで、次のような活動に取り組んでみてはいかがでしょうか。

① オリジナルあいさつ

「おはよう」「いただきます」「ごちそうさまでした」「さようなら」などを、新しい生活様式でのルールを考えながら、その学級にしかないあいさつの仕方を考えます。学級で話し合っ決めても、日直が毎日違う指示を出してもいいです。

例えば、ポーズを付けたり、グッズやカードを使ったりするなど、子どものアイデアを生かして取り組んでみましょう。

② “NO! 3密” のイベント

休み時間の遊び方には、各校の実態に応じた様々な規制があると思います。そんな規制の中でもできる休み時間の活動を、教師の適切な指導の下で子どもに考えさせてみてはどうでしょうか。条件は、3密を避けることと学級全員が関わり合うことです。

さらに、このような活動を児童会や生徒会が中心となって取り組めば、全校を巻き込んだ「今だからこそ大切な活動」になると思います。

その3 再会での子ども一人一人の思いを大切にす

すでに、4月の時点で学級目標を考え、取り組み始めた学級もあるかもしれませんが、ほとんどの学級では、これから学級目標や合言葉を作るのではないのでしょうか。

そこで、久しぶりに仲間と再会した子どもの気持ちを大切にす、子ども一人一人の思いや願いが仲間と分かち合えるような活動を考えてみてはどうでしょうか。

例えば、子ども一人一人に「どんな学級にしたいのか？」を考えさせます。その一人一人が考えた学級の姿を、みんなで話し合って決めた形のカード（例えば星やブドウ）に書かせたり、みんなの前で発表させたりして、全員の子どもの思いや願いを共有します。そして、その学級に対する思いや願いが書かれたカードを全員分貼り出し、1枚の絵のようにして、その絵を見ながらみんなの思いや願いが反映されるような合言葉を学級で話し合って決めます。（下写真）この一人一人の思いや願いは、その後の学級づくりにも生かすことができます。また、学校生活や学級活動での指針にもなります。



その4 子ども一人一人のがんばりを可視化する

子どもが学校生活での張り合いや励みをもつことができるように、子ども一人一人に短期的なめあてや目標を決めさせ、そのがんばりを互いに分かり合い、認め合い、評価し合う場を作ります。

例えば、個々のめあてを葉っぱのカード『ガン葉』に書かせ、『やる木』に付けさせて、だれが何をがんばっているのかが分かるようにします。めあては、みんなのためになること（一人一役や一日一善など）や、学習面や生活面での具体的な個人目標でも構いません。その後、めあてが達成されれば、花のカード『成花』に感想を書かせて貼り出します（左下写真）。他には、学級のみんで決めためあてをやり遂げたときに、子ども一人一人が花びらに感想を書いて貼り出し、学級で一つの大きな花を咲かせるような工夫もできます（右下写真）。



この活動を通して、仲間のがんばりを認めることができ、身体的な関わりをせず、自然に心の関わりをもつことができます。

さらにこの取組は、「ふれあい期」の次のステップ「ささえあい期」にもつなげることができます。



今後も各期のポイントを捉えた活動の工夫を「テロワール」で紹介していきます。

